

# こども通信

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
漢方内科

上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456

ホームページ  
www.kodomo-  
iin.com



大雪の冬が、ようやく峠を越えた  
ようです。屋根の雪も、直江津では  
見かけなくなりました。

雪国なのだから多少は仕方ないと  
思いますが、それでもドカ雪は困り  
ます。交通が麻痺するなど、市民生  
活に支障が出ます。

高田公園に来ていた白  
鳥も、ここ数日で北の方  
に帰って行ったようです。  
北帰行。寒い土地が好き  
なんですね。

\* \* \*

衆議院選挙が終わりました。結果  
は与党の勝利でした。

何ともすっきりはしないです。ま  
ずはあの選挙を、雪の多く降る中で  
行わなければいけない理由が見当た



多数です。これは  
どうなのでしょう  
か。  
少数政党の声を  
真剣に聞くと  
いう  
姿勢が見られない

のは、このことと関係がありそう  
です。決して自分の政党も過半数を  
とっている訳ではないのです。

これは「小選挙区制」という制度  
に問題があります。一人しか当選し

水曜午後の外来を行っています。  
診療時間は午後2時～5時です。

## 感染症情報

現在、インフルエンザB型が大きな流行になっています。今シーズンはA型の流行が1か月ほど早く始まり、B型の流行も早かったです。1月下旬から多くなり、2月上旬には警報レベルまで発生がありました。その後も収束には至っていません。B型は春先に多いと言われていますが、引き続き注意をしてください。

新型コロナウイルス感染症は少数の発生です。

感染性胃腸炎の発生も多かったです。嘔吐と下痢があり、乳幼児では脱水や低血糖にならないように注意が必要です。

溶連菌感染症も多数発生しています。強い咽頭痛と発熱が特徴です。

水痘（みずぼうそう）が一部の学校で流行しました。幼児期にワクチンを済ませているので、軽い経過でした。

麻疹（はしか）の発生は、当地では一旦収束したようです。しかし、色々な場所で麻疹患者は出ています。大変に伝染力が強いので、十分に注意が必要です。

麻疹の予防接種は1歳代と入学前1年間の2回が必要です。1歳になったら早めにワクチン接種を受けてください。

また年長までの期間でも麻疹になる可能性はあります（修飾麻疹）。感染リスクのある方は、もう一度ワクチン接種を受けておくとより麻疹にかかりにくくなります。

麻疹の流行が拡がらないように願っています。

ない小選挙区では、1票でも多い人が当選します。その一方で、落選した方の票は「死票」になります。死票が大量に発生していると、民意に歪みが生じることになります。

これを改善するには、小選挙区制をなくし、中規模の選挙区として、複数の候補を選出する方法か、比例代表を主にする方法が考えられます。

日本の選挙制度についても、色々

3月は区切りの月。卒業式、卒園式などもあり、何かと忙しくなります。受験もこれからというところもあります。

と考えさせられました。

\* \* \*

心身ともに健やかに過ごし、晴れの舞台を迎えてください。

感染症

## 水痘が小流行

水痘（すいとう）が一部の学校で小流行していました。久しぶりです。

「みずぼうそう」と呼ばれるこの疾患は、水痘・带状疱疹ウイルスによる感染力の強い感染症です。

## ●主な特徴

38℃前後の発熱とともに、全身に強い痒みを伴う赤い発疹（丘疹）が現れます。発疹はやがて水ぶくれ（水疱）になり、最終的にかさぶた（痂皮）へと変化します。

ウイルスに感染してから発症するまで、通常2週間前後（10日～21日間）かかります。

感染経路は 空気感染、飛沫感染、接触感染で広がります。非常に感染力が強く、同じ部屋にいただけで感染する可能性があります。

多くの場合は自然に治癒します

が、必要に応じてアシクロビルなどの抗ウイルス薬が処方されます。

## ●注意点

学校保健安全法により、「すべての発疹がかさぶたになるまで」は登園・登校が禁止されています。

一度治ってもウイルスは体内の神経に潜伏し続け、数十年後に带状疱疹として再発することがあります。

大人になってから初めてかかると、子供よりも重症化しやすい傾向があります。

## ●予防

1～2歳児を対象とした2回定期接種を受けて予防します。

水痘ワクチンは効果が弱いので、2回目を早めに受けておく必要があります。標準では6～12か月ですが、最短では3か月空ければ接種が完了します。

水痘ワクチンは、1970年代に

日本で開発された世界初の弱毒生ワクチンです。1984年の欧州を皮切りに普及しました。

日本では1987年から任意接種でしたが、接種率はさほどあがらず、水痘の流行は繰り返されています。そこで2014年10月から2回定期接種へと移行され、劇的に流行が減少しました。

## ●水痘ワクチンの歴史・経緯

高橋理明博士らが患者（岡さん）の組織から分離されたウイルスを基に、弱毒化した「岡株」を開発しました。現在、日本開発の岡株は、世界中で使われている唯一の水痘ワクチン株として知られています。

2014年の定期化後は子供の水痘発症が大幅に減少し、重症化の予防に効果を発揮しています。

## ●带状疱疹

带状疱疹は、水ぼうそうと同じウイルスが原因で、体の片側の神経に沿って強い痛みと水ぶくれ（皮疹）が帯状に生じる病気です。

50代以上、疲労やストレスで免疫

力が低下した際に発症しやすく、早期（発疹から3日以内）の抗ウイルス薬治療が、带状疱疹後神経痛などの合併症を防ぐ鍵となります。

皮膚の違和感・ピリピリとした痛みの後、赤い斑点と水ぶくれが帯状に現れます。

水痘・带状疱疹ウイルスが原因。過去の感染で神経節に潜伏していたものが再活性化したものです。

50歳以上で発症率が高まり、80歳までに約3人に1人が発症すると言われています。

早期治療が非常に重要です。

50歳以上はワクチン接種が可能ですが、予防接種により発症や重症化を防ぎます。（子どもたちに使っている水痘生ワクチンと、もう一つ、不活化ワクチンがあります）。

水ぶくれの液は水ぼうそうに未感染の人にうつる可能性があるため、水ぶくれが治るまでは直接の接触や共有物に注意です。

（水痘ワクチンが普及し、数十年すると带状疱疹がなくなると期待していますが、どうでしょう。私が見ることはなさそうです）

オンライン診療を行っています。

希望の方は予約画面からどうぞ。